



第1回英語FD懇談会 開催報告



全学教育開発機構

英語FD懇談会開催の経緯

英語教育懇談会発足の経緯

全学教育開発機構では、今年度より英語の専任教員の参加を得て「英語教育懇談会」を構成し、英語教育に関する全学的な情報交換や意見交換を定期的に行っております。懇談会においては、本学の英語教育の現状、学生の学力などについて、教員間で活発な意見交換がなされており、今後の本学の学生に必要とされる英語教育を展望する場となっています。

英語FD懇談会の開催

英語教育懇談会では、英語教育改革の取組みの一環として、英語教育に関する全学的FDを企画実施していきたいと考えております。その第一弾として、この度『本学における英語教育実践』というテーマのもと、英語担当教員および全学教務委員を対象とした各学部における英語教育実践の報告懇談会を開催いたしました。この懇談会は、現在本学で展開されている学部毎の多様な英語教育について互いに理解を深めること、また英語担当の先生方の授業研究の機会および交流の場を提供することを目的としたものです。

第一回英語FD懇談会 開催概要

テーマ：「本学における英語教育実践」

開催日時：2008年9月29日（月）13:30-16:00

場所：美浜キャンパス研究本館 教学会議室

主催：全学教育開発機構 英語教育懇談会

出席者数：24名

英語専任教員4名, 全学教育開発機構員1名, 全学教務委員1名

英語非常勤講師10名, 職員7名

プログラムの詳細

13:30-13:40 開会の挨拶 全学教育開発機構長 木戸 利秋

13:40-13:45 参加者の自己紹介

13:45-14:10 実践報告① 社会福祉学部教授 小泉 純一

14:10-14:35 実践報告② 福祉経営学部教授 内野 信幸

14:30-14:50 懇談

14:50-15:00 休憩

15:00-15:25 実践報告③ 国際福祉開発学部教授 影戸 誠

15:25-15:45 実践報告④ 国際福祉開発学部准教授 中西 哲彦

15:45-16:00 懇談

第一回

英語 FD 懇談会開催報告

2008年9月29日(月)、美浜キャンパス教学会議室にて本学では初めての全学的英語FD活動となる「第一回英語FD懇談会」が開催されました。今回は、「本学における英語教育実践」というテーマのもと、4名の英語専任教員より各自の教育実践の内容に関する報告がなされました。各報告とも大変充実した内容であり、本学の英語教育実践の多様性とその質の高さを改めて実感する機会となりました。

当日は非常勤講師を含め14名もの英語担当の先生方が参加され、学部間、専任・非常勤間の枠組みを越えた活発な意見交換がなされ、英語教員間の新たな情報交換・情報共有の場となりました。懇談の中では、参加者の先生方に本学の英語教育に対するご意見や最近の学生の顕著な学力低下を憂慮する声など、率直なご意見を出していただき、今後の英語教育の更なる改善につながる示唆を得ることが出来ました。

開催後参加された先生方に記入していただいたアンケートでは、「各学部の先生の英語教育観と実践を伺うことが出来、大変良い機会だった」「参考になった」、「今後も開催してほしい」等、概ね好意的なご回答を得ることが出来ました。今後、本学の豊かな英語教育実践の共有を更に進めていくとともに、英語の教育の発展・向上につながるような実効性の高いFD活動として、この取組を継続していきたいと思っております。



実践報告を熱心に聞き入る先生方



当日の懇談の様子

報告要旨

四人の先生方のお話を伺って

まず、小泉純一先生より、社会福祉学部での授業実践について報告が行われました。授業運営にあたっての創意工夫やご自身の教育内容を見直したきっかけなどが紹介されるとともに、小泉先生が入学初年次の1年生に対して、1年間に亘ってどのような英語教育を実践されているかが報告されました。この教育実践を通じて非常に高い学習効果が得られていることについて、実際に使用されている教材や学生アンケートの紹介を交えた説明がなされました。小泉先生の独創性溢れる授業実践の報告に対する、参加者からの関心は高く、報告後には評価方法や授業での提出物についてなどの質問が出されました。



続いて、内野信幸先生より、福祉経営学部の英語教育についての報告が行われました。経済学部就任時からこれまでの20年間におよぶ学部英語教育改革の変遷の報告をベースに、英語学習に対する内野先生の考え方について、先行研究やご自身の研究結果の紹介を交えながら、論理的に説明されました。また、中学の教科書を音読すれば（中学3年間で学習する英文法を学習すれば）英語力は身に付く、試験には辞書の持込を認める、英語の発音はカタカナで教えるのも有効だ、などの斬新な提言がなされ、参加者は熱心に聞き入っていました。



休憩を挟んで、影戸誠先生より、3つ目の報告が行われました。影戸先生の英語教育実践はICTの活用やプレゼンの効果的な活用に特徴があります。まず、国際福祉開発学部の



英語プログラムの内容や、プログラム策定にあたって参考にしたARCSモデル(*)についての説明がなされ、その後、プログラムの一環である国際フィールドワークやWorld Youth Meetingの意義が熱心に語られました。また、独自に開発されたi pod用学習コンテンツやeラーニングコンテンツについて、実際の映像やコンテンツの視聴をしつつ説明がなされました。影戸先生の先進的な教育実践に参加者も高い関心を示し、特にi podの活用方法については質問が多く寄せられました。



最後に、中西哲彦先生より、デモ授業形式による教育実践紹介が行われました。英語検定をツールとして活用するなど、中西先生の教育方針が紹介された後で、アクティブラーニングの手法を用いた授業の様子が実際に再現されました。参加者同士でペアを組み模擬授業に取り組む会場の様子は、まさに活気溢れる教室といった趣きでした。その後の質疑応答では、経済学

部の学生の英語力について質問が出され、非常勤講師の先生方を交えて議論がなされました。

今回の四人の先生方の報告はそれぞれ、教育実践に支えられた多様性に富んだ内容を持ち、参加者も多くの刺激を受けたことは、その感想からも伺えます。まさに日本福祉大学の英語教育の幅の広さと豊かな可能性を示すものであったといえます。

(*ARCSモデル…Dr. John Keller(1983)が提唱。学習意欲の問題と対策を、Attention, Relevance, Confidence, Satisfactionの4要因に整理した枠組みと、各要因に対応した動機づけ方略、ならびに動機づけ設計の手順を提案した。)